

流下する腐敗植物等の停滯鬱積して、一種瘴癘の氣を發生するに非ざるか。姑く記して讀者の參考に供す。

七日安定を背にして北に向ふ。行くこと未だ幾ばくならず、一河を渡る。河幅約四十米突水幅約八米突平水能く徒涉し得べし。此より西北向して十里堡を過ぐれば、响河澗シヤンホチエンを渡る。河幅約十五米突水幅僅に三米突餘、次で二十里堡、三十里堡を経て、西行約一里の間、復た同一の河を渡り、峴口舖ツマイカオプを通過して瑞麥澗ルマイチエンを渡る。河幅約二十米突餘水幅三米突許、斯くて揚子亭ヤンツヂンを過き、行程七里餘、稱鈎驛チヤンコウイに投ず。

是日の途上、二十里堡及揚子亭附近は、牛羊を牧養するもの多く、道路は皆山麓に通ずるが故に一側は山に寄り、他は河に沿ひ、或は斷絶或は平地。然れども地形狹隘なるに因り、平地甚だ少く、路幅も亦狭く馬車の轉覆せんとするもの數次なりき。又安定縣官の云ふ所に依れば、六盤山以西は十月以降、翌年四月に至るまで、土地結氷して耕す能はず。爲めに毎年唯一回の收穫あるのみと。

途上多く鹹土を見る。水に投じて之を煮れば、純然たる曹達水を得べく、饅頭の製造者皆之を用ゆ、又六盤山附近に一種の石あり、白布と混煮すれば、燦然青色を染

鹹土と染  
色石